

# 消臭&除菌スプレー GREEN HAZE®

グリーン・ヘイズ

災害時の衛生管理に

消臭から除菌まで



フィトンチッド植物成分の効果

消臭

防虫

防カビ

除菌

リラックス

# グリーン・ヘイズC.I.C.シリーズ

## 消臭効果

臭いを感じなくする即効性の中和作用と、悪臭物質に直接働きかけて臭いそのものを無臭化する分解作用で、効果的に消臭します。

### 消臭の対象となる臭い

- アンモニアなどの刺激臭 ●タバコ臭 ●腐敗臭 ●薬品臭
- アルコール類 ●油脂臭 ●下水・し尿臭 ●塗装・溶剤臭
- 密閉空間のこもり臭 ●エアコン ●その他業務関連臭

### ● 4大悪臭に対する消臭効果データ

悪臭残存率 (財)日本食品分析センター試験

悪臭物質名	経過時間			
	3分	5分	10分	20分
アンモニア	49%	23%	9%	5%
トリメチルアミン	33%	20%	7%	2%
硫化水素	62%	39%	22%	11%
メチルメルカプタン	59%	34%	21%	9%

## 安全性について

下記の各試験により製品の安全性を確認しています。

- 口に入った場合の安全性……〔急性経口毒性試験〕\*にて確認。
- 皮膚についた場合の安全性……〔皮膚一次刺激性試験〕\*と、さらに健常者(5~47歳の男女28名)のパッチテストで異常例は0%。
- 目・他への刺激……〔眼刺激性試験〕\*で6段階のトップランクの「無刺激物」。また吸入の安全性を〔急性吸入毒性試験〕\*\*で確認。

\* = (財)日本食品分析センター試験  
\*\* = (社)東京都食品衛生協会 東京食品技術研究所試験

## 健康効果

自然の樹木の香りを嗅ぐとさわやかな気分になるのは、単なる気のせいではなく、実際にヒトの生理機能を促進することが科学的に証明されています。フィトンチッドの中には、自律神経の働きを助けたり、副交感神経の活動を活性化する作用を持つ成分もあります。樹木の主要な香気成分α-ピネンは、アルファ波の出現率を高めたり、疲労回復効果のあることが知られています。また、フィトンチッドを吸入すると、肺臓の纖毛運動が活発になり空気中の細塵を除去しやすくなることや、ひのき・松のにおいが肝臓の働きを助けることが明らかになっています。

## 防カビと防虫

特に、杉、ひのき、モミなどに含まれる抗カビ成分が作用して青カビをはじめとする各種カビに対してその育成を阻止、繁殖を抑えます。また、ヒノキチオールやクマリンに代表される樹木の防ダニ成分は繁殖を抑制するほか、ダニの動きをとめてしまう行動抑制作用も持っています。

## 原料について

原料は野生(または無農薬)植物のみとした天然100%で、製造工程でも合成化学物質は使用せず、有害物質は含んでいません。

### 原料植物

木曽ひのき 紀州ひのき 青森ヒバ 秋田杉 クマザサ 黒松 赤松 エゾ松 クスノキ ヨモギ 白樺 モミ シン ブドウ 柿(枝葉) レモン アマチャヅル 大豆 お茶 など

### ◆フィトンチッド【Phytoncid】とは？

植物が、細菌・カビ・害虫などの外敵から身を守るために発散している抵抗物質。殺菌、消臭のほか驚くほど多様な働きをすることが知られています。

有限会社 ツインソリズ / 東京都世田谷区経堂1-17-11-2F Tel:03-3428-7446

## 除菌効果

多様な菌に対する幅広い除菌力を発揮します。除菌効果に関しては下記の各機関の試験により検証しています。

### ●黄色ブドウ球菌・サルモネラの検体中の菌数測定結果

試験菌株: *Staphylococcus aureus* (黄色ブドウ球菌)  
*Salmonella Typhimurium* (サルモネラ)

試験菌名	区分	菌数 (/ml)			
		原液*	開始時	60分後	24時間後
黄色ブドウ球菌	検体	5.2×10 <sup>7</sup>	0	0	0
	対照	5.2×10 <sup>9</sup>	5.2×10 <sup>9</sup>	5.0×10 <sup>8</sup>	6.0×10 <sup>6</sup>
サルモネラ	検体	1.4×10 <sup>5</sup>	0	0	0
	対照	1.4×10 <sup>7</sup>	1.4×10 <sup>7</sup>	2.1×10 <sup>7</sup>	6.6×10 <sup>7</sup>

備考… 対照: 滅菌ペプトン加生理食塩水 \* = 菌種接種時の菌数

※標準寒天培地(栄研化学)を用いた混釈平板法(37℃、48時間培養)により測定  
[(財)日本環境衛生センター試験]

### ●病原性大腸菌O-157に対する試験結果

試験菌: *Escherichia coli* O-157:H7 ATCC 35150 (病原性大腸菌O-157)

試験菌	初期菌数	0分後	2.5分後	15分後
病原性大腸菌O-157	1.1×10 <sup>5</sup>	<10	<10	<10

※SIB寒天培地(極東製薬)を用いて36℃、20時間培養後に測定  
[(財)北里環境科学センター試験]

### ●緑膿菌に対する試験結果

試験菌: *Pseudomonas aeruginosa* IFO 13736 (緑膿菌)

試験液及び試験方法	初発菌数	グリーン・ヘイズ作用時間			
		5分	10分	15分	30分
生理食塩水	4.6×10 <sup>5</sup>	/	/	/	3.1×10 <sup>5</sup>
グリーン・ヘイズ培地塗布法		<10 <sup>1</sup>	<10 <sup>1</sup>	<10 <sup>1</sup>	<10 <sup>1</sup>
グリーン・ヘイズMF法		0/20ml	0/20ml	0/20ml	0/20ml

※MF法 = メンブランフィルター法 [(財)北里環境科学センター試験]

### ●結核菌に対する試験結果

試験菌: *Mycobacterium bovis*: 牛結核菌BCG株 RIMD 1314006

試験液及び試験方法	初発菌数	グリーン・ヘイズ作用時間			
		5分	10分	15分	30分
生理食塩水	1.2×10 <sup>5</sup>	/	/	/	1.8×10 <sup>5</sup>
グリーン・ヘイズ培地塗布法		3.9×10 <sup>4</sup>	3.1×10 <sup>4</sup>	6.0×10 <sup>3</sup>	2.0×10 <sup>1</sup>
グリーン・ヘイズMF法		3.9×10 <sup>4</sup>	2.6×10 <sup>4</sup>	4.4×10 <sup>3</sup>	1.8×10 <sup>1</sup>

※MF法 = メンブランフィルター法 菌数: CFU/ml  
[(財)北里環境科学センター試験]

### ●レジオネラの検体中の生菌数測定結果

試験菌: *Legionella pneumophila* GIFU 9134 (レジオネラ)

試験菌名	試験液	菌数 (/ml)			
		開始時	5分後	10分後	30分後
レジオネラ	検体	3.7×10 <sup>6</sup>	<100	<100	<100
	対照	3.7×10 <sup>6</sup>	***	***	1.0×10 <sup>6</sup>

検体: グリーン・ヘイズ <100: 検出せず \*\*\*: 測定せず  
対照: 滅菌生理食塩水 [(財)日本食品分析センター試験]

## 【販売代理店】

ユニトレンド株式会社

04-7167-0501 千葉県柏市若葉町3-3